

教育研究業績

2023年 5月 1日

氏名 徳田 行延

研究分野		学位
会計学		商学修士
研究のキーワード		
財務会計・公正価値会計・ホスピタリティアカウンティング 教育実践：産学官連携協働学修型アクティブラーニング授業の開発		
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 学内共同研究 本学における会計教育の意義と役割 学生が身につける知識とスキル	2007年4月1日～ 2009年3月31日	サービス経営学部における会計教育の意義と役割を検討し、各授業において学生が身につける知識とスキル及びサービス経営学部の他の科目との関係を検討し、教材を開発し報告した。
2. 学内共同研究 協調学習型サービスラーニングの授業開発	2009年4月1日～ 2011年3月30日	学生の経験・体験学習として産学連携・PBL・協調学習型サービスラーニングの開発と実践をおこなった。サービスラーニング(プライダル)ではセルリアン東急、川越東武ホテル、ホテルニューオータニ、草月会、エムタナカ、裏千家等と連携を組んだ。サービスラーニング(メディアコンテンツ)では東京国際映画祭との連携により学生の派遣をおこなった。これを基礎として、2009年からは就業力育成支援事業において教育実践をおこなっている。
3. 学内共同研究 協調学習型サービスラーニングの授業開発	2009年4月1日～ 2011年3月30日	学生の経験・体験学習として産学連携・PBL・協調学習型サービスラーニングの開発と実践をおこなった。サービスラーニング(プライダル)ではセルリアン東急、川越東武ホテル、ホテルニューオータニ、草月会、エムタナカ、裏千家等と連携を組んだ。サービスラーニング(メディアコンテンツ)では東京国際映画祭との連携により学生の派遣をおこなった。これを基礎として、2009年からは就業力育成支援事業において教育実践をおこなっている。
4. 大学生の就業力育成支援事業 「経験値からのサービス産業就業力育成」シミュレーションマインドからエンピリカル・バリューへ【取組責任者】	2010年12月1日～ 2013年3月31日	【取組概要】 サービス経営学部における既存のキャリア教育およびサービス・イノベーション人材育成推進プログラムの取組に加えて、サービス業への就業を希望する学生のエンピリカル・バリュー(経験値)、自己認識、自己表現力、就業意識を高めるための、コミュニケーションを重視した新たな取組を通して、学生の就業力向上を目指すものである。
5. 学内共同研究 産学協同体験型授業の設計・実践に関する研究	2012年4月1日～ 2013年3月31日	東京国際映画祭とのコラボレーションにより行っている体験型授業を発展させた。学生に一定のエンバワメントを持たせ、組織の目標に寄与する提案とその実施から、PBL(project based learning)型授業として展開した。
6. 産学官連携PBL型アクティブラーニングの授業開発と実践ー狭山市共催「サヤマdeシネマvol.1」映画上映会プロジェクト(1)	2017年4月～ 2017年9月	学生のアクティブラーニング実践の場として、狭山市共催、東京国際映画祭後援、地元企業協賛による映画上映会「サヤマdeシネマ」を正課の授業として実施した。本プロジェクトは東京国際絵外債でインターンをおこなう学生が、私たちの上映会を地元狭山で実施したいという意見から実現したものであり、すべてを一から立ち上げたものである。狭山市共催、東京国際映画祭後援、その他協力のイベントである。
7. 地域貢献・体験型アクティブラーニングー特別養護老人ホームでの金婚式の実践	2017年12月20日～ 2018年1月19日	狭山市内の特別養護老人ホームと連携し、学生の学びを実践する場として、ホーム内での金婚式を企画運営した。
8. 地域貢献・体験型アクティブラーニングー特別養護老人ホームでの金婚式の実践	2017年12月20日～ 2018年1月18日	狭山市内の特別養護老人ホームと連携し、学生の学びを実践する場として、ホーム内での金婚式を企画運営した。
9. 狭山市共催 届出婚	2017年12月1日～ 2020年2月14日	狭山市・リクルート(ゼクシー)との共催で、市役所議場内での届け出婚の企画・運営を学生が実施した。学生はプライダルプロデュースIIおよびチームワークラーニング(体験授業)の一環としてこのプロジェクトに参加し、これまでの成果を発揮する場となった。
10. PBL型アクティブラーニングーBUNRI BIRDAL 本物の結婚式及び模擬結婚式の実施(2008ー2018)【集約】	2008年4月～ 2018年3月	2008年より実施している結婚式の授業開発を2018年まで集約して記録する。 本学の体験実習授業として模擬結婚式を4回、本学卒業生の本物の結婚式を1回、学生と共に実施した。学生は、プライダルプロデュース、チームワークラーニング、リーダーシップラーニングを履修している1年生から4年生である。PBL型のアクティブラーニングであり、学習モデルとしては、経験学習、批判的学修を基礎として、一部正統的周辺参加型学修を取り入れている。
11. PBL型アクティブラーニングの授業開発と実践ー東京国際映画祭インターン学修プログラムの開発・実施(8)	2017年9月～ 2018年1月	第29回東京国際映画祭にインターンとして参加する学生向けに、PBL型アクティブラーニングを経験学習モデルのフレームワークでプログラムを開発・実践した。参加学生は1年生から4年生まで正課の授業を履修している学生で先輩後輩関係のチームでインターン参加している。 本プロジェクトは、文部科学省就業力育成支援事業をきっかけに開発されたもので、2010年より11年間毎年継続されている。

12. 産学官連携PBL型アクティブラーニングの授業開発と実践ー狭山市共催「サヤマdeシネマvol.2」映画上映会プロジェクト(2)	2018年4月～ 2018年9月	学生のアクティブラーニング実践の場として、狭山市共催、東京国際映画祭後援、地元企業協賛による映画上映会「サヤマdeシネマ」を正課の授業として実施した。 本プロジェクトは2年目となり、オープニングアタックの制作および協賛地元企業の開拓を中心に取り組んだ。サンプリング数は800を超えた。サヤマ愛を育てるという開催目的を实践することに学生と取り組んだ。
13. PBL型アクティブラーニングーBUNRI BIRDAL 本物の結婚式及び模擬結婚式の実施(2018)	2018年4月～ 2019年3月	本学の体験実習授業として模擬結婚式を4回、本学卒業生の本物の結婚式を1回、学生と共に実施した。学生は、ブライダルプロデュース、チームワークラーニング、リーダーシップラーニングを履修している1年生から4年生である。PBL型のアクティブラーニングであり、学習モデルとしては、経験学習、批判的学修を基礎として、一部正統的周辺参加型学修を取り入れている。
14. 高大連携 体験型アクティブラーニングの実施(2)	2018年4月～ 2019年3月	昨年までの文理高等学校との高大連携を拡大し、私立文華女子高等学校と連携し、学びの場の提供を行う。本学学生にとっても、高校生の学びの内容をポートフォリオとなるように準備をすることで、自らの学びの意味を確認する機会となり、高校生に対するファシリテーターとしての役割をもつ機会となる。高校生が参加するイベントは、サヤマdeシネマvol.2および第31回東京国際映画祭となる
15. 東京国際映画祭ボランティア研修プログラムの開発・実施(1)	2018年8月～ 2018年10月	東京国際映画祭にボランティア参加される学生社会人に対して事前の研修プログラムの開発と実施を本学学生と共に実施した。東京国際映画祭にボランティア参加する現代的意義を講義したのち、コミュニケーションゲームを実施した。コミュニケーションゲームについて、本学学生と共にアイデアを実現化し、本学学生主導で5回の研修を行った。
16. PBL型アクティブラーニングの授業開発と実践ー東京国際映画祭インターン学修プログラムの開発・実施(9)	2018年9月～ 2019年1月	第31回東京国際映画祭にインターンとして参加する学生向けに、PBL型アクティブラーニングを経験学習モデルのフレームワークでプログラムを開発・実践した。参加学生は1年生から4年生まで正課の授業を履修している学生で先輩後輩関係のチームでインターン参加している。 本プロジェクトは、文部科学省就業力育成支援事業をきっかけに開発されたもので、2010年より11年間毎年継続されている。特に参加者の抱く「心理的安全性」を調べるためにアンケート調査を実施し先輩後輩関係のあるチームの有効性を確かめた。
17. PBL型アクティブラーニングーBUNRI BIRDAL 本物の結婚式及び模擬結婚式の実施(2019)	2018年4月～ 2019年3月	本学の体験実習授業として模擬結婚式を4回、本学卒業生の本物の結婚式を1回、学生と共に実施した。学生は、ブライダルプロデュース、チームワークラーニング、リーダーシップラーニングを履修している1年生から4年生である。PBL型のアクティブラーニングであり、学習モデルとしては、経験学習、批判的学修を基礎として、一部正統的周辺参加型学修を取り入れている。
18. 高大連携 体験型アクティブラーニングの実施(3)	2019年4月～ 2020年3月	昨年同様、文理高等学校と私立文華女子高等学校と高大連携し、学びの場の提供を行う。本学学生にとっても、高校生の学びの内容をポートフォリオとなるように準備をすることで、自らの学びの意味を確認する機会となり、高校生に対するファシリテーターとしての役割をもつ機会となる。高校生が参加するイベントは、サヤマdeシネマvol.3および第32回東京国際映画祭であった。
19. 東京国際映画祭ボランティア研修プログラムの開発・実施(2)	2019年8月～ 2019年10月	東京国際映画祭にボランティア参加される学生社会人に対して事前の研修プログラムの開発と実施を本学学生と共に実施した。東京国際映画祭にボランティア参加する現代的意義を講義したのち、コミュニケーションゲームを実施した。コミュニケーションゲームについて、本学学生と共にアイデアを実現化し、本学学生主導で5回の研修を行った。
20. PBL型アクティブラーニングの授業開発と実践ー東京国際映画祭インターン学修プログラムの開発・実施(10)	2019年9月～ 2020年1月	第32回東京国際映画祭にインターンとして参加する学生向けに、PBL型アクティブラーニングを経験学習モデルのフレームワークでプログラムを開発・実践した。参加学生は1年生から4年生まで正課の授業を履修している学生で先輩後輩関係のチームでインターン参加している。 本プロジェクトは、文部科学省就業力育成支援事業をきっかけに開発されたもので、2010年より11年間毎年継続されている。特に参加者の抱く「心理的安全性」を調べるためにアンケート調査を実施し先輩後輩関係のあるチームの有効性を確かめた。
21. 産学官連携PBL型アクティブラーニングの授業開発と実践ー狭山市共催「サヤマdeシネマvol.3」映画上映会プロジェクト(3)	2019年4月～ 2019年9月	学生のアクティブラーニング実践の場として、狭山市共催、東京国際映画祭後援、地元企業協賛による映画上映会「サヤマdeシネマ」を正課の授業として実施した。 本プロジェクトは3年目となり、ポスターチラシのメインビジュアルとキャッチコピー及びボビディコピーの制作を重要課題として取り組んだ。さらに、『モリのいる場所』の沖田修一監督に来院いただき、トークセッションを学生が開催した。
22. PBL型アクティブラーニングーBUNRI BIRDAL 本物の結婚式及び模擬結婚式の実施(2020)	2020年4月～ 2021年3月	本学の体験実習授業として模擬結婚式を4回、本学卒業生の本物の結婚式を1回、学生と共に実施した。学生は、ブライダルプロデュース、チームワークラーニング、リーダーシップラーニングを履修している1年生から4年生である。PBL型のアクティブラーニングであり、学習モデルとしては、経験学習、批判的学修を基礎として、一部正統的周辺参加型学修を取り入れている。

23. 産学官連携PBL型アクティブラーニングの授業開発と実践ー狭山市共催「サヤマdeシネマvol.4」映画上映会プロジェクト(4)	2020年4月～ 2020年9月	学生のアクティブラーニング実践の場として、狭山市共催、東京国際映画祭後援、地元企業協賛による映画上映会「サヤマdeシネマ」を正課の授業として実施した。本プロジェクトは4年目となり、(1)コロナ禍におけるイベントの開催と(2)地域貢献、および新規協賛企業の開拓および広報宣伝方法の拡張を新規の課題として学生と取り組んだ。さらに、『日日是好日』の大森立嗣監督に退場したとき、トークセッションを学生が開催した。		
24. PBL型アクティブラーニングの授業開発と実践ー東京国際映画祭インターン学修プログラムの開発・実施(11)	2020年9月～ 2021年1月	第33回東京国際映画祭にインターンとして参加する学生向けに、PBL型アクティブラーニングを経験学習モデルのフレームワークでプログラムを開発・実践した。参加学生は1年生から4年生まで正課の授業を履修している学生で先輩後輩関係のチームでインターン参加している。2020年度はコロナ禍であり、遠隔授業と対面授業の学生が混在しながらも先輩後輩関係のチームが参加学生の不安を取り除いていた。本プロジェクトは、文部科学省就業力育成支援事業をきっかけに開発されたもので、2010年より11年間毎年継続されている。特に本年度は、フラットな組織によるチームワークとリーダーシップの形成プロセスに焦点を当ててを学生と実践した。		
25. 産学官連携PBL型アクティブラーニングの授業開発と実践ー狭山市共催「サヤマdeシネマvol.4」映画上映会プロジェクト(5)	2021年4月～ 2021年12月	学生のアクティブラーニング実践の場として、狭山市共催、東京国際映画祭後援、地元企業協賛による映画上映会「サヤマdeシネマ」を正課の授業として実施した。本プロジェクトは5年目となり、(1)コロナ禍におけるイベントの開催と(2)地域貢献、および新規協賛企業の開拓および広報宣伝方法の拡張を新規の課題として学生と取り組んだ。ドキュメンタリーとフィクションをテーマとして、予定されていた9月開催はコロナの拡大により延期され、12月18日の日に『つつんで、ひらいて』と『わたしの叔父さん』の2作品を上映した。『つつんで、ひらいて』の広瀬奈々子監督に登壇頂き、トークセッションを学生が開催した。		
26. PBL型アクティブラーニングーBUNRI BIRDAL 本物の結婚式及び模擬結婚式の実施(2021)	2021年4月～ 2022年3月	本学の体験実習授業として模擬結婚式を5回、本学卒業生の本物の結婚式を1回、学生と共に実施した。学生は、ブライダルプロデュース、チームワークラーニング、リーダーシップラーニングを履修している1年生から4年生である。PBL型のアクティブラーニングであり、学習モデルとしては、経験学習、批判的学修を基礎として、一部正統的周辺参加型学修を取り入れている。		
27. PBL型アクティブラーニングの授業開発と実践ー東京国際映画祭インターン学修プログラムの開発・実施(12)	2021年9月～ 2022年1月	第34回東京国際映画祭にインターンとして参加する学生向けに、PBL型アクティブラーニングを経験学習モデルのフレームワークでプログラムを開発・実践した。参加学生は1年生から4年生まで正課の授業を履修している学生で先輩後輩関係のチームでインターン参加している。2020年度はコロナ禍であり、遠隔授業と対面授業の学生が混在しながらも先輩後輩関係のチームが参加学生の不安を取り除いていた。本プロジェクトは、文部科学省就業力育成支援事業をきっかけに開発されたもので、2010年より11年間毎年継続されている。特に本年度は、フラットな組織によるチームワークとリーダーシップの形成プロセスに焦点を当ててを学生と実践した。		
2 作成した教科書、教材				
1. 『エッセンス簿記会計』第5版 森山書店	2008年3月31日	本書は、商業簿記を対象として、簿記の初歩的学習から始めて、企業を見るための財務諸表分析能力の修得および、企業の計数管理の技能、特に納税申告書作成のための技能の修得を目指している。		
2. 『簿記論 I ワークブック』西武文理大学	2008年3月31日	本書は、本学の簿記・会計教育における教育目標を整理検討するためにおこなった共同研究の成果の1部として作成したものである。特徴はこれまでの簿記学習の内容を手がかりとしながらも、各テーマごとの教育目標や到達目標を明確とし、簿記の理論的知識と実践的スキルの形成を個別の問題ごとに明確にして、学習内容の理解と自学自習形成をねらいとした点である。		
3. 『イントロダクション簿記』改訂版 創世社	2008年4月10日	本書は簿記の初学者が基礎力を養成し、簿記の記帳技術の育成を目標とするものである。		
3 教育上の能力に関する大学等の評価				
4 実務の経験を有する者についての特記事項				
5 その他				
職務上の実績に関する事項				
事項	年月日	概要		
1 資格、免許				
2 特許等				
3 実務の経験を有する者についての特記事項				
4 その他				
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称 (著書)	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概要

1. 連結会計用語辞典	共著	2007年3月28日	税務経理協会	本書は、いわゆる会計ビックパンに起因する連結企業中心の会計情報の提供に対応することを目的としたコンパクト版の連結会計用語辞典である。
2. エッセンス簿記会計第5版	共著	2008年3月31日	森山書店	本書は、商業簿記を対象として、簿記の初歩的学習から始めて、企業を見るための財務諸表分析能力の修得および、企業の計数管理の技能、特に納税申告書作成のための技能の修得を目指している。
3. イントロダクション簿記(改訂版)	共著	2008年4月10日	創世社	本書は簿記の初学者が基礎力を養成し、簿記の記帳技術の育成を目標とするものである。
4 簿記論 I ワークブック	共著	2009年3月30日	西武文理大学	本書は、本学の簿記・会計教育における教育目標を整理検討するためにおこなった共同研究の成果の0部として作成したものである。特徴はこれまでの簿記学習の内容を手がかりとしながらも、各テーマごとの教育目標や到達目標を明確とし、簿記の理論的知識と実践的スキルの形成を個別の問題ごとに明確にして、学習内容の理解と自学自習形成をねらいとした点である。
5 エッセンス簿記会計第6版	共著	2009年4月10日	森山書店	本書は、商業簿記を対象として、簿記の初歩的学習から始めて、企業を見るための財務諸表分析能力の修得および、企業の計数管理の技能、特に納税申告書作成のための技能の修得を目指している。
(学術論文)				
1. 相続税法において取引相場のない株式に適用される時価概念について	単著	2004年3月	西武文理大学	会計上の時価評価問題を検討する手がかりとして、相続税法上取引相場のない株式に適用される時価概念の検討をおこなった。時価に求められる客観性概念＝交換価値を測定するための階層性を相続税法の評価目的との関係から検討し、評価通達の規模別、保有主体の要件別の測定属性の選択に問題点があることを指摘した。p.79-p.89
2. 有価証券取引にかかる勘定整備	単著	2005年8月	日本簿記学会年報第20号	
3. SFAS157号『公正価値測定』の検討-公正価値の定義と公正価値階層性を中心として-	単著	2007年3月	明大商学論叢	
4. 「実学教育を中心とした個性化の取り組み」	単著	2010年7月	大学時報No. 333	たプロジェクト学修 (PBL) を学生が地域貢献イベントとして発展させたものである。本稿は、学生が映画上映会を創り上げる経験の中で協働と省察学修により課題をどのように解決し、プロジェクトを前進させていこうとしているかという学びの取組を紹介するものである。
5. 「ホスピタリティ・ウェディング-本物の結婚式によるホスピタリティの学び」	単著	2013年10月	大学時報No. 353	
6. 研究ノート「プロジェクト学修(PBL)の記録:産学官民連携地域貢献イベント「サヤマdeシネマ」	単著	2020年5月	西武文理大学研究紀要35号	本学では2017年より大学の所在地である埼玉県狭山市で学生発案による映画上映会「サヤマdeシネマ」を支援している。この上映会は2010年からおこなっている東京国際映画祭を学びの場としたプロジェクト学修 (PBL) を学生が地域貢献イベントとして発展させたものである。本稿は、学生が映画上映会を創り上げる経験の中で協働と省察学修により課題をどのように解決し、プロジェクトを前進させていこうとしているかという学びの取組を紹介するものである。
(その他)				
1. 勘定科目の研究(中間報告)	口頭発表	2003年8月	日本簿記学会第19回全国大会簿記教育研究部会	教育研究部会委員として勘定科目の研究についての共同研究に参加し、部会報告をおこなった。
2. 勘定科目の研究(最終報告)	口頭発表	2004年8月	日本簿記学会第20回全国大会簿記教育研究部会	教育研究部会委員として勘定科目の研究についての共同研究に参加し、部会報告をおこなった。
3. 有価証券取引にかかる勘定整備	口頭発表	2004年8月	日本簿記学会第20回全国大会自由論題の部	有価証券取引における当初認識時およびその後の測定時の勘定整備について、報告をおこなった。要旨については、上記学術論文の2を参照されたい。
4. 簿記学的観点から見た実務指針等の検討(中間報告)	口頭発表	2005年9月	日本簿記学会第21回全国大会実務研究部会	実務研究部会の委員として、公認会計士協会の公表している実務指針及び企業会計基準委員会から公表されている適用指針の簿記処理について検討をおこなった。
5. 簿記学的観点から見た実務指針の検討(最終報告)	口頭発表	2006年8月	日本簿記学会第22回全国大会実務研究部会	実務研究部会の委員として、公認会計士協会の公表している実務指針及び企業会計基準委員会から公表されている適用指針の簿記処理について検討をおこなった。
6. 研究グループ報告「配当財源決定メカニズムの国際的動向(中間報告)」	グループ報告	2012年9月	国際会計学会第29回研究大会	配当財源決定メカニズムについての実証研究を行った。担当は韓国の配当性向の実証研究についてである。
7. 研究グループ報告「配当財源決定メカニズムの国際的動向(最終報告)」	グループ報告	2013年9月	国際会計学会第30回研究大会	配当財源決定メカニズムについての実証研究を行った。担当は韓国の配当性向の実証研究についてである。